

特集：医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育

e ラーニングを活用した新人看護師研修プログラムの開発と評価

伊津美 孝子*, 真嶋 由貴恵**, 鳶田 聡***

Development and Evaluation of a New Nurse Training Program which Utilizes e-Learning

Takako IZUMI*, Yukie MAJIMA**, Satoshi SHIMADA***

During fiscal year 2010, I. hospital changed its educational modality for new nurses from conventional classroom education to participatory education using an e-learning. Results show that 1) new nurses became able to learn anytime and anywhere. 2) Irrespective of the time and place, senior nurses became able to give advice related to questions and problems that new nurses had encountered according to a specific scenario. 3) The new-nurses training program which utilized e-learning based on the image showed the effect to the new nurse technical acquisition also from the result of the skill test and the interview.

キーワード：e ラーニング，新人看護師研修，看護技術習得，OJT，ナレッジマネジメント

1. はじめに

少子高齢化社会，医療の高度化，安全・安心な医療サービスの提供，患者のニーズの多様化などに伴い，臨床能力の高い看護職の需要は高まる一方である。平成 27 年には，看護職員需給見通し約 150 万 1 千人に対して，供給見通しは約 148 万 6 千人で，不足する見込み⁽¹⁾ となっており，継続して看護職員の十分な供給体制を確保しておくことが重要である。わが国では，新卒看護職員（以下，新人とする）を毎年約 5 万人輩出している。しかし，新人の離職率⁽²⁾⁽³⁾ は，9%前後で推移しており，就職しても約 1 割が 1 年後には辞めている現状があり，問題となっている。新人の職場定着を困難にしている主な要因の一つに，「看護基礎教育で習得する看護実践能力と臨床側の求めるものとの乖離⁽²⁾」が挙げられている。臨床看護実践と教育内容との乖離が進む背景には，看護教育の高等

教育化による臨地実習時間の減少に⁽⁴⁾⁽⁵⁾ 加えて，臨床看護内容の複雑化，患者の重症化，患者の安全擁護に対する意識の高まりに伴って，看護学生が臨床現場で経験することができる看護援助の実習機会が縮小してきていること⁽⁵⁾⁽⁷⁾ などが挙げられる。つまり「看護を知る・わかる」という段階から「看護方法を知る・実践できる」という段階⁽⁶⁾⁽⁷⁾ まで能力を高めるという目標を達しないまま，新人として就職するものが増加しているということを示している。このように，看護職員受給見通しに供給が追いつかない現状に加え，新人看護師の離職によりさらに看護職の数が減少することは，今後さらなる医療福祉サービスの充実を期待されているわが国においては，早急に解決しなければならない課題と言える。

この深刻な状況を受けて，「新看護職員研修における研修責任者・教育担当者のためのガイドライン」⁽⁸⁾ では，新人看護職員研修の考え方として，以下の 3

* 森ノ宮医療大学保健医療学部 (Faculty of Health Sciences, Morinomiya University of Medical Sciences)

** 大阪府立大学大学院工学研究科 (Graduate School of Engineering, Osaka Prefecture University)

*** 日本大学工学部 (College of Engineering, Nihon University)

受付日：2013 年 5 月 6 日；再受付日：2013 年 7 月 22 日；採録日：2013 年 9 月 24 日